

第17号

あいさつ
会長
原田 菊子

結成50周年にあたって

～式典は平成28年秋に～

川越市更生保護女性会は、今から50年ほど前(昭和41年)に女性の保護司・民生児童委員・婦人会役員を中心として約70名で結成された。当時の資料を見ると、活動の文言は現在とあまり変わっていない。しかし、社会は確実に発展してきた。昭和39年に東京オリンピック開催、高校進学率66%、高度経済成長は右肩上がりに進み、テレビや自家用車が普及し人々は豊かさを求めて生きてきた。非行や犯罪は時代や社会の変遷とともに形を変えて出現している。

結成当時から本会は母親の立場をふまえ、非行や犯罪に陥つ

た人たちの支援を中心に明るく社会をつくるために努力してきた。50周年を機にさらに広く情報を収集して有効な実践を積みしていきたい。

平成26年度定期総会の開催

川越市更生保護女性会定期総会は、5月14日(水)川越市市民会館会議室で庭山福祉部長、保護司会遠藤副支部長のご臨席のもと、会員83名が出席して開催された。

原田会長より結成50周年記念事業の準備、子育て支援の推進、理事会の組織的運営に力を注いでいきたいとのあいさつがあった。

議事に入り、平成25年度事業報告・決算報告・監査報告の承認。続いて平成26年度役員承認。新役員による平成26年度事業計画案・予算案が承認され無事終了した。

平成26年度役員

会長 原田 菊子
副会長

新井 とよ 田邊 純子
会計 野崎 昭子 井上 順子
書記 松平 静江 諸星すみ江
監事 伊藤かつ子 橋本つた子
理事 金子 真弓 小川 道子
三上 朝子 山口 勝子
岸野 素子 藤崎 淑子
西村 雅子 田中 幸子
矢部美知子 福羅喜代子
内藤 貴子 水井 和江
塩野 慎子 今給黎克子

非行の芽は小さい頃にあるという。そこで、小・中学校の教育を統括し指導している教育委員会の先生に児童生徒の状況について講義をお願いしました。

【川越市における

生徒指導の現状と課題】

講師 川越市教育委員会
指導主事 早川美彦先生

1 川越市の生徒指導の現状

暴力行為(対生徒・対教師、器物損壊)小学校は増。

2 いじめの発生件数

24年度に急に増えている。

3 不登校児童生徒(24年度)

1 中学校平均10人、中学校は減、小学校は増。

4 要保護児童等相談受理件数

年々増えている。

5 その他非行問題

小は窃盗、金品の持ち出し。中は喫煙、遊び型非行、家出(長期間)、窃盗等。

＜川越市教育委員会の取り組み＞

携帯電話・パソコン・ゲーム機の使用の仕方。さわやか相談等の設備。警察署・児童相談所との緊密な連携

＜課題＞

○非行・問題行動の低年齢化

○インターネットのトラブル

○家庭教育力の低下

大切なことは子どもたちを見守る地域の輪である。



講師：早川美彦先生

ふれあい福祉まつりに参加して

福原地区 三浦あや子

5月18日、更女会として、また一市民として、ふれあい福祉まつりに初めて参加しました。会場案内の係でした。不慣れな事もあり、来場された方々に、ご迷惑な点もありましたが、「ご苦劳様です」と心暖まる言葉に励まされ、何とか協力する事が出来ました。交替で各ブースを見廻りましたが、活気溢れる現場に圧倒されました。ステージ、交流コーナーでも一生懸命に発表する姿、特にきびきびとした中学生の行動に清々しさを感しました。皆様が互いに声を掛け合い楽しんでいる様子が印象的でした。私も参加させて頂き、多くの人々と楽しいふれあいが出来た一日でした。



ふれあい活動をした仲間たち

社会を明るくする運動に

参加して

第八地区 山口 勝子

7月26日、百万灯夏まつりの中で、社会を明るくする一環として、「おかえりなさい！」の優しい文字の入った、うちわ配りを行いました。午後2時からと暑さの一番厳しい折、連雀町から仲町方面に向って、「社会を明るくする」スローガンの、のぼり旗を先頭に、保護司、社会福祉協議会、民生児童委員、そして地域有志の皆様と歩きました。駅の方へ向う人、蓮馨寺境内で休む人、はしゃぎ回る子ども達。街中が賑わっている。「どうぞ」と差し出した、うちわを笑顔で受け取ってくれる人、あるからと断る人、一本の小さなうちわに少しの休息と涼しさを渡すこの運動に参加し貢献出来た心よさを感じた一日でした。

川越少年刑務所の諸行事参加

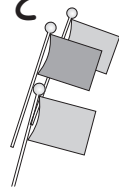
誕生会に参加して

第十一地区 藤崎 淑子

4月15日、誕生会の招待を受けました。先に所長室に通され

「私は朝会の時、他人の心と過去は変えられないが、自分の心と未来は変えられる。いつも言うのです」と話され、感銘しました。会場では、まだ幼な顔の残る少年達が緊張した面持で座っていました。大きなヤカンに入った飲物を一人ひとりに注いで回りながら、「お誕生日おめでとう」と言う、「ありがとうございます」の笑顔が返ってきました。様々な事情から入所衣食住ばかりでなく、健康管理もされ、ここで学んだ事を糧に社会復帰を果たした時には、きっと実りのある人生を送って欲しいと祈ります。

体育祭に参加して



霞ヶ関地区 福羅喜代子
5月28日、少しの不安と緊張の思いで初めて参加させて頂きました。

長い通路を進み、セキュリティのある扉を抜け広い庭に出ると、そこには沢山の少年達が整列していました。どの競技も真剣そのもので、最後まで走り抜く姿が印象的でした。

周りの高い塀と看守の方が並

ぶ景色がなければ、ここが刑務所である事を忘れそうでした。

応援アナウンスの「自分に負けるな。自分が苦しい時は人も苦しい、だから頑張れ」「よくやった。ありがとう」を幾度も耳にし、其々の人生へのエールともとれ、厳しさと愛情を感じました。

暑い日でしたが、水分補給もせず、頑張る様子が心に残りました。

西ブロック研修会に参加して

第一地区 金子 眞弓

研修は、平成26年10月3日に東松山市文化センターにて行なわれました。

午前は、さいたま保護観察所長の笹井啓二氏の講演とDVDの上映がありました。

講演の内容

①更生保護への関心と期待

刑務所出所後の自立を支えるための居場所と仕事の必要性

②更生保護が抱える課題と対策

高齢又は障害を抱える受刑者は、仕事に就くことが難しいため再犯防止の可能性を福祉につなげることも検討課題

③更生保護女性会に期待

地域のニーズを知り、得意分野を生かした活動に期待

午後は、「ミニ集会」についてグループ討議となったが、自分のグループでは、更生保護女性会の活動を周知理解していただくことの大切さを議論しました。

中堅研修会に参加して

霞ヶ関北地区 檜本千英子
11月27日さいたま共済会館にて中堅会員研究協議会が開催されました。川越より12名が参加しました。

金澤会長と笹井さいたま保護観察所長より挨拶と今回の講師日本更生保護女性連盟会長千葉景子氏のご紹介がありました。

千葉会長はかつては法務大臣をされた方で、現在は弁護士としてご活躍をされています。「期待される更女活動」と題され、社会が全体的に孤立化され人々との関係が希薄な今日に私たち近所に居るおせっかいなおばさんとして、しなやかに楽しく活動して行く事が大切とお話



しくださいました。

中央研修報告を東松山、松伏地区の両会長より、関東地方研修報告を富士見、草加地区の両会長よりいただき、更女会員の方々と有意義な一日を過ごす事ができました。

四地区交流会

開催は川越で！

9月19日(金)午前



10時、今だに夏を思わせるような暑い陽ざしの中、更生保護女性会が恒例とする、4地区(ふじみ野市、富士見市、坂戸市、川越市)の交流会が各地区の代表を一堂に会して開かれました。当日は2部構成で開催地区の原田会長のあいさつから始まりました。



他地区の皆さんとの意見交換

【第一部】

「川越まつりの歴史と見どころ」

講師 川越市立博物館

主査 田中敦子先生

意義深い基調講話に耳を傾け、映像に目を見張り、360年の歴史ある川越まつりに感嘆の声があがりました。10月に迫っている、この祭りをどの人もきっと新たな気持ちで観に行こう。そんな様子が見えました。

川越の歴史にばんざい、大きな拍手が講師をつつみました。

【第二部】 地区交流

昼食を済ませての午後の部はグループを5つに分け交流懇談会に入ります。テーマは自由でしたが、いずれのグループからも、更女会への理解が薄く、愛の募金活動につながる様なアクションが必要ではないかとの意見がでました。

しかし図書費贈呈への反響は大きく、学校からお礼状が届くなど、その募金の使い方や、生かし方でPRにならないだろうかとの発言も、各グループでは活発な意見交換が見られました。また地区会長からは工夫とその活動が話され、初めて参加した、新会員さんへの参考にな



輪になって踊る川越音頭

ったようです。出来ることとしては、地域行事などへの参加、公的機関との連携、子育て支援への応援。視点は様々に提案として出されました。この地区交流での経験がそれぞれのステツプアップになればと願います。最後に川越まつりをより深めてもらおうと、有志の手ほどきで「川越音頭」を大きな輪になって踊りました。テーマソングの「愛をみんなで」は、手をつなぎ、声たからかに歌いました。笑顔がいっぱい。やさしい気持ちになりました。さようなら、お元気で、また会いましょう。皆様おつかれさまでした。

(田邊)

施設訪問 赤城少年院へ

名細地区 今給黎克子

秋晴れの12月4日私達30名は、16才未満の50名の少年が生活する赤城少年院を訪問しました。

院長の話は、「矯正教育、必ずきつと心の絆をめざして」と題し、「啐啄同時」のことから雛が内側から殻をつつくと、外からのタイミングを見逃さない親鳥の気配りを例にとり、共生共有という一緒に寄り添って孤立化させない支え合う関係作りの話をされました。また、将来への希望や家族への思い、周りの人たちへの感謝の気



赤城少年院の前にて

持ちを記した卒院生の手紙を紹介されました。

院長の明るい声でお話しされる様子は、少年たちの明るい未来を想像することができ、更生を願う一日となりました。

子育て支援

ニーズに応えよう！

◀子育て支援センターにておひなさまづくり



▶市立博物館にて炭火アイロン体験学習のサポート

27年度本会は県更女の委嘱により子育て支援の実践に取り組みることになった。

いまや子育て支援は多くの団体が取り組んでいる。次代を担う子どもたちを健やかに育てようとの気持ちは大変素晴らしい。テーマとして取り組む以上、効果のある活動にしたい。

すでに埼玉育児院、川越市立博物館、子どもの城と公共機関よりの依頼が来ている。(原田)

受賞おめでとう

『第六十一回埼玉県更生保護大会』

十一月十二日(水)

埼玉会館大ホールにて

○関東地方更生保護委員会委員長感謝状 新井 とよ

○さいたま保護観察所 所長表彰 舟橋 浩子 宮根 順子 水井 和江

○埼玉県更生保護女性連盟 会長表彰 皆川 昭代 長田 たか子 西條 裕子 伊藤 かつ子 橋本 つた子



小学校へ愛の図書費贈呈



原田会長

川越小学校
小池校長

昨年、川越市内に22ある中学校への贈呈を終え、今年度からは32の小学校へ順次贈らせて頂きます。はじめに、川越第一小、川越小、中央小、仙波小、泉小の5校へ原田会長、地元理事が訪問しての贈呈。

明るく清潔な校舎や校長先生からの感謝の言葉、後日届いた図書委員の子どもさんたちからの丁寧なお礼状の束。それには美しい表紙が付けてあり、更女会は感動を新たにしました。

愛の募金

募金総額 778,626円
県更女連盟 194,000円
地区活動費 584,626円
上記の通り
ご報告致します。
会計 野崎 昭子
井上 順子

編集後記

散り交う桜の花びらを手にうけようと、走り回わる子どもたちの姿に、ふうーと口元がゆるみ、穏やかな季節のはじまりを感じます。17号更女たよりをお届けします。様々な人の思いや、その様子をご覧下さい。発行にあたり、寄稿や写真をご提供下さった皆様に心からお礼申しあげます。

(広報委員 原田・田邊・水井)